



【巻頭言】

広がる世界、広がる視野

清水 啓一

今回、M1という立場ながら巻頭言の執筆を担当することになった。事前に井村先生から言われたように「これからの野外について」などと大風呂敷を広げることはもちろんできないのだが、その気になって書いてみようと思う。

4月に入学してから今日まで、つくづく感じるのは筑波大学の野外運動研究室は、教授の顔ぶれはもちろん設備の面などを見ても本当に恵まれているということだ。この研究室で学び、実戦経験を積んでいけば、有能な指導者になれる、そう思えるほどに。10月に行われた日本野外教育学会第14回大会は、私にとっては初めて“外部の”野外を志す人たちと触れ合う機会であった。特に、自分と同年代の学生たちと出会い、熱く語ったことは本当に良い刺激になったのだが、それと同時に、これまで自分がとても狭い視野の中でしか学んでこなかったということに気付かされた。先ほど述べたように、この研究室はとても恵まれている。私が室員の皆さんに呼びかけたいのは、ここで学べることだけで満足してしまうのではなく、時には外部の活動に目を向けて、実際に行動を起こしてみよう！ということだ。その中で出会う人々の自分とは異なった考えや視点に触れることで、新しい自分を発見するきっかけを掴むことができるのではないだろうか。「でも具体的にどう行動したら・・・」と心配してしまう室員のあなた！ご心配なく。私が研究室広報係主任として提供する野外関係の各イベント、フォーラム、シンポジウム等々の情報をぜひ有効に活用して欲しい。

「人との出会いが自分を変える」綺麗すぎる言葉である。しかし、大学院入学から今日までの自分を表現するなら、この言葉しかない。この冬また一層、野外運動研究室全ての室員が、素敵な出会いに恵まれることを願う。

【研究室関連授業（2学期）／研究室連絡】

○学群関連科目

- ・山野スポーツ
- ・野外運動方法論演習Ⅳ
- ・野外運動方法論Ⅲ（雪上）
- ・学群雪上実習
- ・野外スポーツマネジメント実習

○大学院関連授業

- ・野外教育・スポーツ指導理論
- ・野外運動論演習（通年）
- ・野外教育・スポーツマネジメント
- ・野外教育・スポーツ実習Ⅲ（雪上）

【授業関連報告】

○UG 水辺実習

福塚 賢一（UG3）

2011年11月7日から12日まで5泊6日の日程で渡嘉敷島を中心にUGの水辺実習が行われた。参加者はUG3年が3人、UG4年が1人であった。

準備段階ではスムーズにいかないこともありバタバタしたが、なにはともあれ何とか準備しだいで出発してみると、本当に楽しく、キャンプ実習に引き続き心に残る実習になったと思う。

ダイビングが主な実習目的でその他にも様々なプログラムを行いそれぞれに思い出があるが、天気が悪かったことも強く印象に残っている。自分の経験の中でも天気の悪いイベントは記憶に残っているが今回もその一つとなった。大自然の中で活動するにはリスクを背負い、何か起こった場合にはそれに対処できるだけの知識も必要だということを経験を通して学んだと思う。また、渡嘉敷の海には忘れられない景色も広がっていて、経験できた多くのことに感動した。

最後に心に残っているのは、吉田先生と過ごした時間である。出発前までは怒られてばかりだったのでどんな実習になるのかとても緊張していた。

しかし、いざ同じ時間を過ごす先生との性格や人間性が少しずつ分かってきて、ダイビング中の先生はかっこよくもあり尊敬した。

吉田先生が担当される最後の実習だったので、その実習に参加できて本当によかったと思う。この場をお借りして、先生にお礼の言葉を申し上げます。ありがとうございました。



○野外教育・スポーツ実習IV(セラピューティック)

日比野 功宜 (MC1)

2011年9月23日、24日の2日間、11月3日の計3日間実習が行われた。前半2日間はMTBプログラムを行った。参加者は野外研の久米、清水、日比野の3人であった。初日に筑波大学を出発し、霞ヶ浦、筑波山周辺をグループで地図を読みながら決められたコースを走った。その日の夜はビバークサイトを自分たちで決め宿泊をした。翌日は筑波山にある風返峠でタイムトライアルを行い、その後は筑波大学までグループランを行った。タイムトライアルの途中で久米のマウンテンバイクが故障するという事態に見舞われたが、無事終えることが出来た。

後半は谷川連峰にある白毛門沢を1日かけて沢登りをした。参加者は上記の3人に加えて特殊体育学M1の渡辺も参加することとなった。今年の実習はいつも野外研M1の3人で行っていたので



1人増えることで何か新鮮な感じがした。沢登り自体はシーズンを過ぎているということもあり、水温もあまり高くはなく、なかなか刺激のあるも

のとなった。現地には前日入りをして、早朝出発をしたのだが、夜中の気温は非常に低く寝袋の重要性を再認識することが出来た。この実習を通してセラピューティックプログラム(体験療法プログラム)を体験することが出来て、一部分ではあるがプログラムの治療的な側面を学習出来たのではないかと思う。

○実技理論・実習 I (野外運動)

久米 あゆみ (MC1)

体育専門学群1年生男子対象の実技理論・実習 I (野外運動) が、2学期金曜1・2限に実施された。渡邊先生の指導のもと、学生たちは授業を通して火おこしやテント設営、ロープワークや地図コンなど様々な野外活動の技術を身につけていった。

その集大成と言っても過言ではないデイキャンプは、野外教育学会や祝日などの影響で例年よりも遅い11月9日(水)~10日(木)にかけて行なわれた。吐く息が真っ白になり、体の芯から冷えそうな寒さの中で、学生たちは授業で学んだことを生かしてキャンプ生活や夕食コンテストに取り組み、またスタッフと共に環境教育プログラムやキャンプファイヤーを楽しんでいた。学生達がそれぞれ素直に一生懸命に取り組んだこともあり、非常にあたたかな雰囲気のでき上がったと思う。ファイヤーやかまどの火に照らされた学生たちの顔は、いつもと違って見えた。デイキャンプを含め、この授業での様々な経験が、何かしら彼らの大学生活における糧になればと心から願う。

今年度の実技理論・実習 I (野外運動) はこれをもって終了となる。TAとして指導の補助や実際の指導の場面に立ってみて、様々な場面でMCとしての力不足を痛感した。今年度はMC1の日比野、清水、久米の3人でTAをやってきたが、この3人だけでは決してまわらなかつた授業であると思う。渡邊先生を始め、室員のみみんなに支えられて無事にTAの役目を終えることが出来た。来年度の実技理論・実習 I (野外運動) も、研究室全体で支えていければと思う。

MCが少ない中で、ASE指導やデイキャンプなど、様々な場面で授業運営に協力していただいたUGの室員みなさんにこの場を借りて感謝します。ありがとうございました。

【課外活動関連報】

○日本野外教育学会第14回大会

向後 佑香 (DC2)

平成23年10月21(金)~23日(日)に筑波大学において日本野外教育学会第14回大会が開催された。研究室からも学生委員として院生及び大学生計13名が会場準備や大会運営に携わ

った。

本年度は「野外教育の体系化 - その分化と統合について -」というテーマで、初日は「被災地の子どもを考える」というイベントと、野性の森でのオープニングパーティー。2日目には自主企画ワークショップ、基調講演、シンポジウム、懇親会。3日目には研究発表が行われた。参加者数 168 名、研究発表 59 題と非常に多くの方の参加を得ることが出来た。

これまで全く学会に関わったことのない室員が多かったと思うが、このような会を通し、同じ分野で勉強している他大学の学生や、色々な分野で活躍している野外の先輩方と触れ合う貴重な体験になったのではないかな。

私もこれまで何度か学会大学に参加して、沢山の人と出会うことができた。

スポーツでも同じだと思うが、特に同期でがんばってる人がいるとすごく刺激になる（もちろん同期だけじゃなくても）。

学会と聞くと敷居を高く感じるかもしれないが、是非色んな人と出会って研究や実践の話など、お互い刺激を受けつ与えつ、野外の仲間を増やしてほしい。そして是非とも研究発表にも挑戦してほしい。

来年の学会大会は沖縄。学群生をはじめ、是非多くの室員が参加してくれるといいなあと思う。

リレーコラム～OB・OGからのメッセージ～



中央大学文学部准教授
布目 靖則さん

師走に入りました。野外研では、今月下旬に菅平で専門実習が行われると聞いています。白く輝く雪山に思いを馳せ、そわそわ落ち着かない日々を過ごしている向きも多のではなんでしょうか。私も明日(12/29)から北海道ニセコへ初滑りに出掛けます(少し落ち着きません)。キャンプシーズンが終わってからというもの、この日が来るのを本当に心待ちにしていました。下手の横好きというやつで、長い間滑っていても、スキーの底知れぬ魅力にどんどんはまっていくばかりです。そんなスキー好きに私がなったのは、もちろん野外研のお陰?と言えるでしょう。

野外研に所属していた当時、研究室には「アンダーは1級、マスターは準指を取ってからでない」と論文を書かかせてもらえない」という過激な不文律が存在しました。雪上実習ともなると皆、リフトが止まるまで一本でも多く滑り込もうと眼の色を変えて練習していた記憶があります。(本当にスキーが好きなのか、論文を書きたいから必死で滑っていたのか、微妙なところもありますが…しかし)上達への強い意欲や上昇志向が研究室全体に雰囲気として漂い、それが個人個人により影響を与えていた(発奮剤になっていた)ものと信じています。

今、私が所属している中央大学には、他に二人の野外研出身者(影山義光教授、高村直成准教授)が在籍しています。お二人ともスキー学会や大学スキー研究会の役員として活躍されていますので、皆さんご存知かと思いますが、それぞれ野外研を巣立った年は違うのですが、たまたま同じ大学に勤務することとなり、スキーの歪み測定やスキー事故裁判など“スキーつながり”の研究を共同で進めています。そして、突拍子がないかもしれませんが、我々がいま取り組んでいる共同研究の端緒は、先ほど紹介したあの過激な不文律があったことは間違いなくと私思っています。

さて、皆さんは現在、野外研で何に熱中していますか?それが、この先、どんな場所でどんな研の花をさかせるのか、今はイメージできないかも知れませんが、一生懸命それを好きになってください。人間、好きになれば、頑張れるものです。そして、頑張ることができれば、必ず何らかの成果は出せるものです。ただし、闇雲に頑張っても効率的ではありませんので、参考として、ある歴史小説家の言葉を紹介したいと思います。

—物事をなすには、塔と道と橋をイメージせよ—

塔は、すなわち<目標>である。高く美しいれば、やる気が高まる。道は、目標に近づく<方法>である。広く真っ直ぐに塔に通じる道を何本か確保できれば、安心できる。だが、登り下りがあるのもまた楽しい。橋は<障害>である。何事にも障害はつきものである。いくつかの橋を用意しておくのが賢明である。

人生でじっくり学べる時間は意外と少ないです。お互い頑張りましょう!

○青山学院大学初等部デイキャンプ (教員)

廣谷 奈々美 (UG4)

2011年11月12、13日に青山学院初等部の先生方のキャンプが行われた。1日目はSPECでクライミングを行い、野性の森でキャンプを行った。2日目の朝は礼拝から始まり、朝食後に、クライミング・カヌー・野外料理のプログラムごとに希望者に分かれて活動を行った。

クライミングでは野外研OBの喜多先生を中心にして、前日同様SPECで行なわれた。1日目にトップロープを行ったので、2日目はリードクライミングに挑戦した。初めてとは思えないほどスムーズに登り切った先生や、最初は不安がっていたがすぐに慣れて積極的に挑戦していった先生などそれぞれクライミングをととても楽しまれていたようだった。

先生方のキャンプと聞き、最初は私なんかで大丈夫かなと思ったが、みなさんとともに勉強されていて、当然のようにしっかりしていたので、そんな心配は無用だった。むしろ先生方と一緒に楽しませていただき、野外運動の楽しさを改めて感じた1日だった。

○水球日本代表 野外研修

岩谷 優志 (UG4)

10月17日(月)、野性の森にて水球日本代表のASEを行なった。今回、私は食糧係として担当した。今まで、自分自身が率先して仕事をしてきていなかった上に、食糧計画を立てたことが無かったので不安が大きかった。そんな中、サポートをしていただいたコーチ、マネージャーがいたので安心はしたものの買い出しに時間をかけすぎて、その後の調理は焦ってしまい、指示が伝わらずに主食であるご飯が食事時間になっても炊きあがらず、しまいにはお粥状態になってしまった。結果、肉を追加で購入することになってしまった。今回の経験から、常にどんな状態であっても冷静になって指示が出せるようになることと、道具の使い方をマスターしていかななくてはならないと実感した。

○とわの森三愛高等学校 野外研修

梶田 歩 (UG4)

2011年10月21日(金)、私立とわの森三愛高等学校のASEが行われた。当日は、2年生生徒39名と先生方2名が来られた。野外研からは全体の統括を坂本先生にさせていただき、ファシリテーターとして向後、久米、清水、日比野、梶田が指導を行った。

2年生の10月ということである程度グループとして固まっている集団を指導するのはこれまであまり経験になかったことやASEの指導自体が久しぶりだったこともあり、自分を含め課題が残る指導を行なってしまった人が多かったように思う。グループの状態に合う課題の選択・設定やファシリテーターの立ち位置など、自分の指導を見直すいい機会になったのではないかと思う。久しぶり、などといった状況に左右されないような指導力をつけたいと感じたASE指導だった。

【野外関連イベント告知】

- 2011年度 キャンプディレクター養成講習会
期間：取得等級別 (キャンプ協会 HP 参照)
場所：国立青少年総合センター他
- OBS 野外救急法資格取得コース
期間：開催地により別日程 (OBS HP 参照)
場所：OBS 長野校、八王子セミナーハウス他
- 自然体験活動指導者養成研修会
期間：2012年2月3日～5日
場所：国立日高青少年自然の家

【編集後記】

すっかり寒くなってきましたねえ～。卒論生はここから本当にラストスパート！！

個人的にはこの冬の雪上実習で研究室の仲間とより一層仲良くなれればと思っています。コタツでミカンも捨てがたいけどやっぱり我々はガンガン外に出て行きましょう～！

(広報担当 清水啓一)